

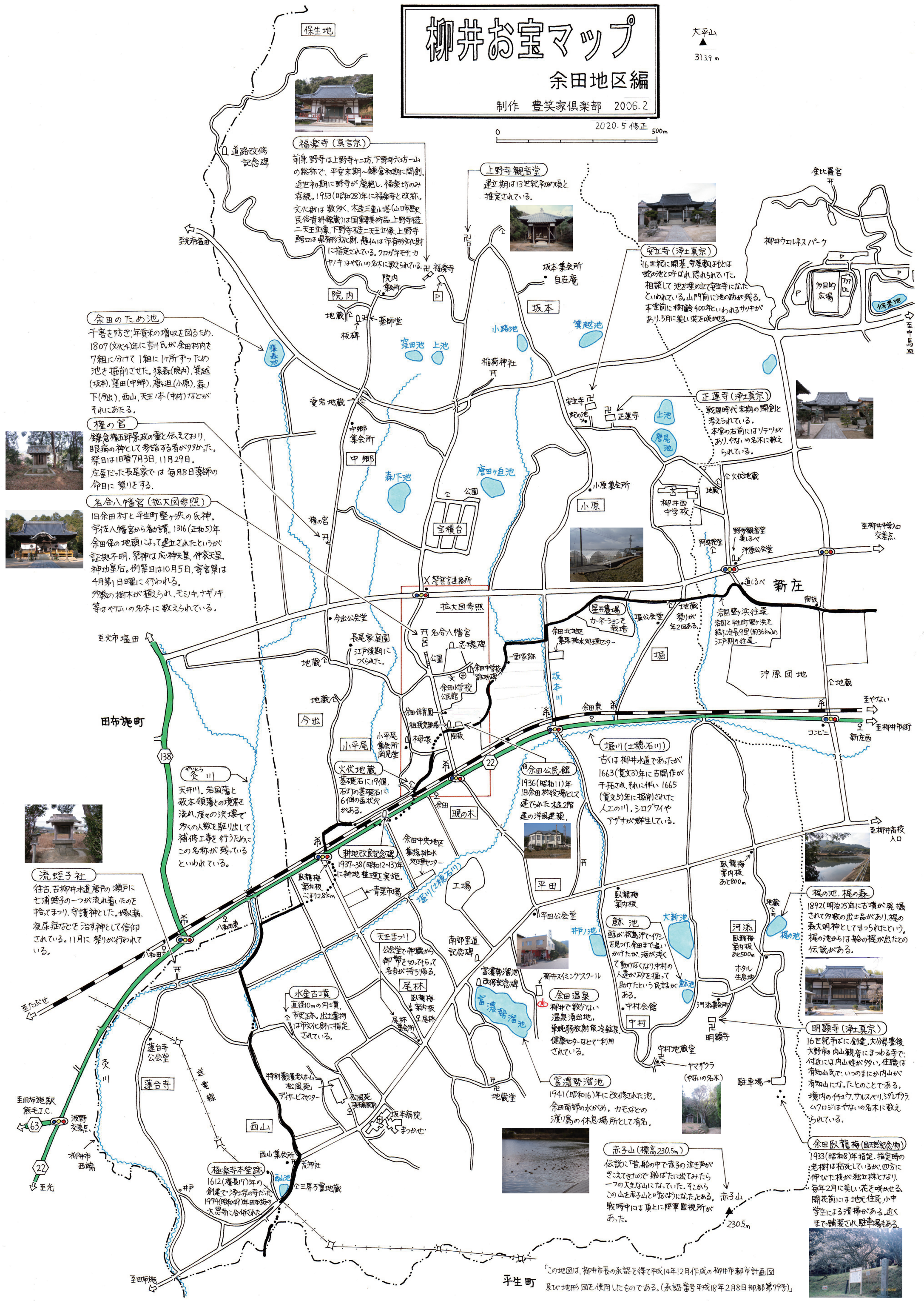
柳井お宝マップ

余田地区編

制作 豊笑家倶楽部 2006.2

大平山
▲
313.9m

2020.5修正 500m



福楽寺(真言宗)

前身野寺は上野寺+二坊、下野寺六坊一山の総称で、平安末期〜鎌倉初期に開創。近世初期に野寺が廃絶し、福楽坊のみ存続。1953(昭和28)年に福楽寺と改称。文化財は数多く、本堂三重小塔(山形県民俗資料館蔵)は重要美術品。上野寺は二天王立像、下野寺は二天王立像、上野寺野口は有形文化財。懸仏は市有形文化財に指定されている。ワカガサチ、カヤノキはやのいの名木に数えられる。

上野寺観音堂

建立期は13世紀末頃と推定されている。

安立寺(浄土真宗)

16世紀に開基。寺屋敷は地蔵の池と呼ばれ知られていた。相譲して池を埋め立て安立寺になったといわれている。山門前に池の跡が残る。本堂前に樹齢400年といわれるサツバがあり、5月に美しい花を咲かせる。

正蓮寺(浄土真宗)

戦国時代末期の開創と考えられている。本堂の右前にはリネツがあり、やのいの名木に数えられている。

余田のたぬ池

干害を防ぎ年貢米の増収を図るため、1807(文化4)年に吉川氏が余田村内を7組に分けて1組に1ヶ所ずつたぬ池を掘削させた。猿森(院内)、築越(坂本)、窪田(中郷)、唐田(小原)、森下(今出)、西山、天王(本中村)などがそれにあたる。

権の宮

鎌倉権五郎景政の霊と伝えられており、眼痛の神として奉詣する者が多かった。祭日は旧暦7月3日、11月29日。庄屋だった長尾家では毎月8日薬師の命日に祭りをする。

名合八幡宮(拡大図参照)

旧余田村と平生町界の氏神。宇佐八幡宮から勧請。1316(正和5)年余田保の地頭として建立されたといわれるが証拠不明。祭神は応神天皇、仲家天皇、神功皇后。例祭日は10月5日、寄宮祭は4月第1日曜に行われる。多数の樹木が植えられ、モミキ、ナギキ等はやのいの名木に数えられている。

交川

天中川、岩田藩と萩本領藩との境界を流る。度々の決壊で多くの人数を駆り出して補修工事を行っていた。この名称が残っているといわれている。

流蛭子社

往古、古柳井水道沿いの瀬戸に七浦蛭子の一つが流れ着いたのを拾ってまつり、守護神とした。瘰癧病、夜尿症などを治す神として信仰されている。11月に祭りが行われている。

堀川(土徳石川)

古くは柳井水道であったが、1663(寛文3)年に古開作が干拓した。それに伴い、1665(寛文5)年に掘削された人工の川。シログワイやアザガサが群生している。

堀の池、堀の森

1892(明治25)年に古墳が築造されて多数の出土品があり、堀の森大明神としてまつられたという。堀の池からは船の堀が出たとの伝説がある。

明顕寺(浄土真宗)

16世紀半ばに創建。大分豊後大野市内山観音にまつる寺で、付近には内山姓が99%、住職は有知山氏で、いつのまにか内山が有知山になったとのことである。境内の仔ウ、サルベリ、シラガラ、ムクロジはやのいの名木に数えられている。

余田臥龍梅(国天然記念物)

1933(昭和8)年指定。指定時の老樹は枯死しているが、四方に伸びた枝が独立株となり、毎年2月に美しい花を咲かせる。開花前には地元住民、小中学生による清掃がある。近くまで舗装された駐車場もある。

赤子山(標高230.5m)

伝説に「昔、船の中で赤子の泣き声がきこえてきたので、船はたていでみた。一つの大きな山にならなくなった。そこからこの山を赤子山と呼ぶようになった。戦時中には頂上に陸軍監視所があった。

この地図は、柳井市長の承認を得て平成14年12月作成の柳井市都市計画図及び地形図を使用しものである。(承認番号平成18年2月8日柳都第79号)